

第4次佐倉市総合計画 総合計画審議会（第4回） 要録

| | | | |
|-----|---|---|----------|
| 日時 | 平成22年7月23日（金）9時30分～11時50分 | 場所 | 1号館3階会議室 |
| 出席者 | 審議会委員：亀山委員、熊本委員、坂口委員（副委員長）、鈴木委員（委員長）、田中委員、津留崎委員、西村委員、原委員、平川委員、松崎委員（五十音順） | | |
| | 事務局 | 小柳企画政策部長 企画政策課 小島課長、橋口副主幹、櫻井主査、舎人主査、呉屋主任主事 | |
| | その他 | | |
| 発信 | 内 容 | | |
| 委員長 | <p>前回は、各委員から審議会の方向性に対する意見をいただいた。「歴史」「自然」等のキーワードの重要性や、総合計画にはストーリー性が必要だという意見があった。その意見をもとに、事務局が内部会議で検討した結果、基本構想（案）をまとめた。事務局から説明を求めたい。</p> | | |
| 事務局 | <p>（1）第4次佐倉市総合計画策定について <説明> 第4次佐倉市総合計画基本構想（案）（資料14）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 前回の懇話会における指摘箇所を修正した事務局案を、部長級職員で構成する策定本部で検討し、さらに修正を加えたものである。 ・ 1～3頁：策定の趣旨、構成、計画の性格 人口減少時代において、将来を見据えた計画にする。 ・ 4～6頁：佐倉市の概況、沿革、人口(全国、千葉、佐倉) 人口減少が佐倉市は全国から遅れてやってくる。 ・ 7～10頁：佐倉市の特色7点とその体系図 ①人口減少、少子化・高齢化②歴史・伝統・教育③自然環境の保全・活用 ④芸術・文化⑤災害対策⑥近隣市町村との連携強化⑦財政・市民協働の強化 ・ 11～12頁：将来都市像 佐倉市の人口減少は、全国より遅れて到来する。第4次総合計画の期間は、そのターニングポイントに当たり、本市が持つ強みを生かして、打てる手は何かを考慮し、①～③の政策を図る。 ①定住人口の増加 ②交流人口の増加 ③選ばれるまちづくり ・ 13頁：将来像 「歴史自然文化のまち ～「佐倉」への思いをかたちに～」 第3次構想のキャッチコピーをそのまま使ってはどうか。 抽象的な夢や思いを具現化していく方向性がこれからは大事であるため、副題はこの形式として提案した。 ・ 14頁：土地利用の基本方針 都市マスタープラン（以下、都市マスとする。）と整合性を図る。具体的な施策と計画は、都市マスで位置づける。 ・ 15頁：佐倉市のまちづくり方針、6章立て。 各課から意見聴取し、文言の整理を行った。個別計画を取りまとめる形で、各章に反映されている。 | | |
| 委員長 | <p>意見交換</p> <p>当初は7月23日に市長への答申書を提出するはずだったが、予定がずれこんでいる。その分、本日の審議でより議論を深めていきたい。</p> | | |
| 委員 | <p>まず、重点項目が最初にあるのは良い。</p> | | |

| | |
|-----|---|
| | 次に、11 頁①「夫婦と子供世帯が、転出傾向が強い」にからめて、12 頁②「今後は団塊世代の動向や～」に、「若年層の交流」も含めれば、より活気のある佐倉を目指すニュアンスが増す。例えば「今後は若年性の交流、そして団塊世代の動向や～」としては、24 頁にも「若者も集うまち」のニュアンスが欲しい。 |
| 委員長 | 今後は案の 1～7 番に沿って、進めていきたい。 |
| 委員 | 1-3 頁：1 総合計画策定の意義 |
| 事務局 | 市の今後の姿勢が感じ取れる内容であり、概ね良い。3 頁③「計画数値目標を明らかにする計画」の意味は何か。 |
| 委員 | 総合計画の推進は、計画的に進める。それにあたり、数値目標を設定するという意味である。 |
| 事務局 | 3～5 年の数値目標を設定するにしても、基本構想に数値目標まで書き込む必要はあるか。 |
| 委員長 | 総合計画は 3 層構造で進めるが、基本構想ではなく、基本計画に数値目標を設定する。その方向性を記している。 |
| 委員 | 基本構想では、大局的な表現をとるのは問題ない。基本計画、実施計画に数値目標を導入するという表現に修正されたい。 |
| 事務局 | 財政がひっ迫した状況を示すためにも、市債、負債の残高などを数値的に、基本構想のどこかで触れた方が良い。 |
| 委員 | 財政推計や人口推計の遷移については、データは保有している。が、10 年先の予測値は算出が容易ではなく、基本構想に載せる数値としては適切か悩むところである。本編に載せるか、資料編にするかは検討したい。 |
| 委員長 | 財政力指数、経常収支比率の資料は以前受け取っている。予測値であるから基本構想に載せないことも、基本構想だからこそ将来の方針を立てるために載せることも、どちらも選ぶことができる。資料として掲載するのでは、本編に掲載するのに比べ、説得力が欠けるかもしれない。 |
| 事務局 | 財政の推移は基本構想の方針を示すものだから、いずれにせよ掲載は検討されたい。付帯的に掲載することは可能か。 |
| 委員 | 本編に掲載する場合は、例えば総合計画策定の前提として、現状値を記載するのは想定している。総合計画に 10 年後の推計値を出すのは適切か、ご意見をいただきたい。 |
| 委員長 | 3 頁のほかにも、9 頁の財政基盤に具体的な数値を入れることは可能だろう。現状を記載することは大事だ。市政の何が問題なのかが顕在化するほうが、今後の市政のありかたのイメージが湧く。 |
| 事務局 | 総合計画は、市民がぱっと見て理解できるのが大事だ。経常数値比率などアイキャッチ的なデータは欲しい。最終的には地図や写真が全般的に付加されると予想するが、同様に、将来に危機感をおぼえるような財政力指数等のデータはほしい。 |
| 委員 | 掲載を検討する。 |
| 事務局 | 市民が行政に関わっていくことは、どう基本構想に示されていくか。 |
| 委員長 | 市政運営の基軸である市民協働については、第 6 章に記されている。その前段にあたる課題出しの表現が弱ければ、補足する。 |
| 委員 | 市民協働でこのまちをつくっていくというのが、西村委員の意見だ。庁内では、数多くの委員会活動、調査が行われているので、その結果を基本構想に反映していくことで補足されたい。 |
| 事務局 | 組み立てが変わっただけでありあまり変わっていない。基本構想はもっと具体的なものをほしいと伝えてきたが、計画には目標が具体的であればあるほどいい。特に財政に関する内容がない。魅力あるまちづくりと言うが、具体的に何をやるのか、もっと突っ込んだ方がいいのではないか。回遊道路の整備、アクセスなど加味されていない。成功して |

| | |
|-------------|--|
| 事務局 | <p>いる自治体は、基本構想がもっと具体的で、斬新な構想を立てている。</p> <p>総合計画は三層構造であり、個別具体的な計画については、実施計画レベルでとりまとめる。基本計画において具体性が深まる。審議会では総花的にならざるを得ない基本構想について審議していただきたい。</p> |
| 委員 | <p>4-6 頁：2 佐倉市の概況</p> <p>(1) プロフィールについて。「自然が残っている」とは後ろ向きな表現だ。「印旛沼とその周辺、谷津など豊かな自然に恵まれています。」など前向きな表現が適切だ。</p> |
| 委員 | <p>4 頁、市内の代表的な川として、手繰川を追加されたい。</p> |
| 委員 | <p>5、6 頁人口推移について。このグラフからは、人口減少は読み取れるが少子・高齢化は読み取れない。人口ピラミッド等の資料データがあれば、次の3節の人口減少・少子・高齢化への前段となる。</p> |
| 事務局 | <p>折れ線グラフ、棒グラフにするか悩み、国・県と比較しやすい形式として、折れ線グラフを採用した。棒グラフであれば、人口の三層構造も反映できるが、資料不足により欠損する数値がある。人口ピラミッドのグラフを追加したり、国との比較を再検討したり、再度持ち帰りたい。</p> |
| 副委員長 事務局 | <p>佐倉の人口減少は平成 18 年からと説明があったが、事実か。 横ばいとも言える。</p> |
| 副委員長 | <p>人口減少により財政はひっ迫するものだが、佐倉はまだその状況ではない。だから、財政にプラスになることをすると打ち出すのも、総合計画の役目だ。危機感を持たせるのも重要だが、アドバンテージを活用してまちの活力を向上させるという姿勢を与えることもできる。だからこそ全国に比べ、アドバンテージは何年間か、正確に知りたい。</p> |
| 委員長 委員 | <p>多角的な視点を与えられるように、事務局はデータ・資料を調整、追加されたい。 6 頁のグラフは、佐倉の人口減少が全国に比べて遅いという説明となるデータか。全国の動態と、あまり変わらないのではないか。</p> |
| 事務局 | <p>グラフ化の作業の問題でもあるが、コーフォート法を採用してグラフ化すると、全国動態と同じように見えるのは否めない。データ収集は、人口研ではなく、佐倉独自で行った。</p> |
| 委員 | <p>まちの戦略を考えるにあたって、アドバンテージがあるかは明確にしたい。人口推移の見方を整理する必要がある。事実、アドバンテージがあるならば、戦略的にキャッシュを稼ぐ手段を考えられよう。歳出は増えていく現状で、歳入をどう増やしていくかを考えていく上で、この 10 年間で本当にアドバンテージなのかは非常に大事な方向性なので、人口推移については正確な見方を整理したい。</p> |
| 委員 | <p>7-10 頁：3 佐倉市の特色について</p> <p>(5) 災害に強いまちづくりについて。犯罪・防犯関係への記述が薄い。15 頁の方針の 5 番目には災害、2 番目が防犯が記載されているが、7 頁では防犯は削除されている。「災害・防犯に強いまちづくり」としてはどうか。</p> |
| 委員 | <p>7 頁は佐倉の課題の整理だから、前後の記載は、必ずしも 1 対 1 でなくても良いが、災害だけではなく「安心安全のまちづくり」として防犯要素も加味してはどうか。</p> |
| 委員 | <p>8 頁 (3) 「美しい自然」とあるが、佐倉市概況では「豊かな自然」とされている。一般的に、自然は「豊かな」と形容される。また、「比較的、緑豊か」とあるが、佐倉は有数の自然の多いまち。自信を持って、「豊かだ」と表現されたい。</p> |
| 委員 | <p>また、温暖化への表現について。TOP10 もまもなく名古屋で開催されるが、地球温暖化と生物多様性はペアで論じられるべきだ。佐倉の環境は生物多様性の恵みそのもの、それを強みとできるのではないか。また、自然環境の保全は「都市環境を保持するため」だけではないので、表現を変えられたい。</p> |
| 委員 | <p>佐倉市の特色は、人口問題と経済活性化、豊かな自然環境、歴史環境の保全・活用。</p> |

| | |
|------------------|---|
| | <p>これからは保存・保全だけではなく、地域社会に活用していくのが重要だ。</p> <p>(2) 歴史と伝統も、継承してだけでなく積極的に活用していく。その活用の中には教育も含まれる。教育委員会との連動で積極的に学校教育を推進することが、総合計画に位置づけられるべきだ。それが、佐倉に住みたいという人にも十分に魅力になる。いずれにしても積極的な活用が必要で、特に印旛沼については現状・将来像を踏まえ、積極的な活用を関連自治体と計画されたい。</p> |
| 委員 | <p>7頁(1)は、先ほどの人口減少に対するアドバンテージの話にもつながるが、データと数値の整合性を図られたい。第1節は「外国人登録者が増加している」とも読めるので、文言を改められたい。</p> |
| 委員 事務局 委員長 | <p>佐倉と軍隊はかなり関係がある。まちづくりの説明には、その歴史は載せない方針か。沿革に載せた。基本方針と結び付けるにあたっては、ご意見をいただきたい。</p> <p>歴博での企画展示もあったし、佐倉地域が栄えていた時代でもある。沿革に記載されているとのことで、総合計画に位置づけるかは検討されたい。</p> |
| 委員 | <p>7頁(3)、(4) 景観形成について。環境の保全、文化についてもそうだが、佐倉市は千葉県の13景観行政団体の一。基本構想レベルに位置づけるべきかどうかは意見もあるだろうが、10年後に景観が失われていることのないよう、先手を打って規制をするなどの景観保持の姿勢を示してはどうか。</p> |
| 委員 | <p>確かに、歴史遺産を整備する一方で、マンション・派手な看板の設置をする自治体もあるが、これは景観条例を設置していないためだ。景観対策は先手必勝で、後手にまわると費用もかかる。自然環境保全、歴史環境保全の前提にもなり、総合計画に位置付けてもいいのではないか。</p> |
| 委員長 | <p>佐倉城の城下町通りなども、個人の事情で景観が損なわれた例もある。景観対策と同時に、安全性を重視した建築指導も必要だ。この件について、取り組める方策が総合計画に入れられるか。</p> |
| 事務局 委員 | <p>7、8頁に加味するか、または新たな項目出しにするか、検討したい。</p> <p>制約は大きいだろうが、対策が生み出す結果をどう捉えるかの問題でもある。街並みも農村も、その機能が自然にまわっているところも、景観も美しく、観光資源にもなりうる。総合計画のどこに盛り込むかはさておき、審議会としては、景観対策は非常に重要な要素であると考えます。</p> |
| 委員 | <p>11-12頁：4 将来都市像に向けて</p> <p>「選ばれるまちづくり」には、いろんな資源が考えられるが、教育が充実しているまちには子育て層が転入してくる。佐倉の特色でもある教育には一層力を入れるというニュアンスが欲しい。</p> |
| 副委員長 | <p>教育は佐倉の重点イメージであり、総合計画に加味してほしい。</p> <p>また、定住人口の増加は重要だが、裏づけデータの提示が必要だ。市民アンケートでは「住み続けたい」64%だったのだから、説明資料としてパンチのある数値データとして出すと良い。</p> |
| 委員 | <p>11頁、4節目。今まで、佐倉市は第1次から第3次総合計画で、どんな方向性をやってきたかを俯瞰してきた。人口減少の時代にどんなまちづくりをしていくか、我々の歴史で初めてのことである。その状況で、佐倉市は「人口を減らさない」を選択したのだから、そのニュアンスを総合計画のどこにいれるか。このままでいくと人口減少するけど、佐倉市は政策を打ち出して、人口を減らさないんだという意気込みの記述が必要だ。そして、次の世代へのバトンタッチがキーワードだ。第4次総合計画の期間は、人口減少時代への準備期間であるという考え方を共有した上で、将来像に入る方がいい。その意味で、人口の目標値が必要。減少させない目標を設定する資料を明示し、目標を宣言すべきだ。</p> |
| 事務局 | <p>人口について。過去の総合計画の人口推計で変遷してきた経緯がある。第3次総合計</p> |

| | |
|-------------------|---|
| | <p>画の目標値、17万6千人はつい先日超えたばかりの現状だ。外国人市民も加えていき、今後はこの人口を減らさないのが目標とする。実際には、マイナスになる傾向には抗えないが、できるだけ減らさない、減るピークを抑えたいと考えている。いろんな施策を展開することで、時代へのバトンタッチとしたい。</p> |
| <p>委員 委員長</p> | <p>その意気込みを、総合計画に明記されたい。</p> |
| <p>副委員長</p> | <p>「選ばれるまちづくり」の中に、「人口を減らさない」という目標を掲げてはどうか。就業者人口が減っていくなかで、それをも減らさない環境づくりが必要になる。</p> |
| <p>委員長 委員</p> | <p>都市マスの地域懇談会において、ユーカーリ地区で「若い夫婦が住みたいまち」というキーワードが出た。これをどこかに入れてもらえれば、市の活性化にもつながる。</p> |
| <p>委員</p> | <p>常に年齢層の循環を図る、という意味合いを加えていくということだ。</p> |
| <p>委員長 委員</p> | <p>若い夫婦の転入には、施策の裏付けが必要だ。言葉だけでなく、衣食住やアクセスにおいて、複合的なメリットを与える施策で、行政が手助けしてやる。子育てにメリットがある施策の展開が必要だ。</p> |
| <p>委員</p> | <p>若い人に選ばれるには、教育の前に子育てしやすいかが重要だ。共働きできる条件がまちに整っているか。幼保一元化は数十年前から議論されているが、ようやく国政が動き、サービスの多様性が進む方向性が見えてきた。佐倉の福祉施設は急いで整備してきた、古いという印象があるが、そこを整え、さらに教育も充実しているとなれば選ばれるまちになりうる。</p> |
| <p>委員長</p> | <p>佐倉は古く、100坪買うために3倍の土地を買う必要があるなど、古い体質のあるまちだ。すべての施策が予算に関わってくるのも事実だが、若年層への対応なども計画案にもられたい。</p> |
| <p>委員</p> | <p>交流人口増加に関しては、国と反比例し、歴博は平成18年度から入館者数が増加傾向だ。研究機関だが、歴史文化の発信機能への責任感があり、交流人口増加への施策も強化している。</p> |
| <p>委員</p> | <p>13頁：5 佐倉市の将来像</p> |
| <p>委員</p> | <p>副題の「佐倉」への思いをかたちに」について。市民からのまちづくりの接点が重要であり、市民の夢をかたちにするのが必要なのではないかと考える。佐倉には資源が豊富だが、新しい時代に新しいものを打ち出す求心力、パワーは欠けていると思える。それを、次の10年間で変える意気込みをここに盛り込む。前回までの委員からもらったキーワードを、ここに加えていってはどうか。</p> |
| <p>委員長 委員</p> | <p>市民の存在を意識できるキーワードにする必要がある。</p> |
| <p>委員長 委員</p> | <p>博物館でも大事なものは、住民の参画だ。歴博でも佐倉連隊展示は佐倉市民が参画したもので、最大の入館者数を誇った。市民がいかに参画できるかと考えた時に、この副題が生きてくるのではないか。</p> |
| <p>委員長 委員</p> | <p>例えば「市民参画による佐倉への思いをかたちに」とフレーズを付け加えてはどうか。</p> |
| <p>委員長 委員</p> | <p>市民参画の具体的な例で言えば、自治会不参加率が増えてきた。自治会は身近なコミュニティの参加だが、それにより絆も深まる。</p> |
| <p>委員長</p> | <p>市民も参画する施策をやるべきという意見と思う。市民参加型のニュアンスをキーワードにいれては。</p> |
| <p>委員</p> | <p>「わたしのまち「佐倉」への思いをかたちに」としてはどうか。「市民参画」はキャッチフレーズとしては固いし、参画を押し付けるまでに行くべきではない。</p> |
| <p>委員</p> | <p>副題の原案はたしかに主体が不明で、傍観者的だ。「わたしの」は良い。</p> |
| <p>委員</p> | <p>(原委員、平川委員、田中委員、熊本委員 賛同)</p> |
| <p>委員</p> | <p>前回までの懇話会で、「歴史」と「水」のキーワードが出たので、包含されたい。また、「歴史」と「文化」は類義語である。「通勤できる城下町」というサブタイトルはいかが</p> |

